

子どもが危険に曝されている

お子さまを

不幸にする香料

子どもは大人の数十倍も毒に汚染されやすく、生後6ヶ月までに、生涯全体の3割分もの汚染を受けるともいわれています。農薬や環境ホルモン、放射性物質、トランス脂肪、そして有害ミネラル…。現代社会は多種多様な毒で満ち溢れています。

子どもたちは、生まれたときはみんな「天才」です。しかし、親がこれらの毒に無知であると、そのポテンシャルは開花する前に摘み取られてしまいます。

いま子育て中のお母さんや、これから子どもを産み育てる女性はもちろん、育児に協力するお父さん、孫の成長を見守るおじいさんやおばあさん、全ての人に、この連載を通じて、「子どもを守らなければならない」という使命感を、改めて持って頂きたいと思います。

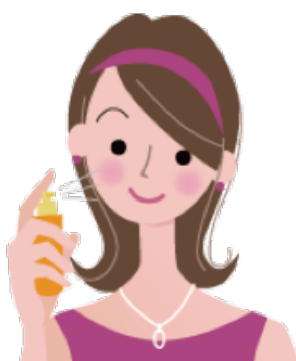
良い香りの商品が売れる

良い香りの商品が、以前にも増して、よく売れているようです。中でも柔軟仕上げ剤や制汗剤が特に売れているようです。誰もが知っているように、良い香りが着けられた(着香された)製品は他にも多くあり、シャンプー、リンス、トリートメント、整髪料、化粧品、ボディシャンプー、石けん、洗濯用洗剤、消臭剤、虫除け剤などがあります。また、着香されていることが前提である製品、たとえば香水、アロ

マオイル、芳香剤などもあります。若い女性の場合、これらの殆どを愛用されているかもしれません。

中には着香していない商品シリーズを揃えているものもあります。たとえば制汗剤には、「無香料」あるいは「微香性」といった品揃えのあることが多いと思います。しかし、よく売れるのは「○○の香り」のような、しっかりと着香された商品だそうです。香りがファッションの一部になってきていることがよく分かります。また、柔軟仕上げ剤は、「無香料」のものは赤ちゃん用商品以外にはほとんど存在しないようです。メーカーとし

ては、無香料の商品はあまり売れそうにないから作らないそうです。



これほどまで
増えている香料被害

着香されている商品を日常的に使い、例えば異性から「良い香りですね♡」と言われ、ワクワクしながら

ら日々を送っている人からすれば、とうてい信じられない話があります。実は、日常的に使われている香料のせいで、甚大な被害を被っている人たちが多くいるのです。しかも、その被害は年々拡大しつつあるのです。

香料による被害が大きいのは、子どもたちが通う学校です。学校の教室は、大人が働くオフィス環境に比べて人口密度が相当に高く、そのことが被害を大きくしている原因の一つです。

被害とは、子どもたちに次のような体調変化が現れることです。息苦しさ、頭痛、めまい、倦怠感、精神不安、皮膚のかゆみ、喉の違和感、食欲不振、自律神経失調、眠気、鼻血、記憶障害、味覚障害、筋力低下、平衡感覚異常、夜間の頻尿、不眠など、多岐にわたります。

香料の匂いの発生源は、小学校では柔軟仕上げ剤で仕上げられた児童の服です。その他には、頭髮に使ったシャンプーやリンスの匂い

も強いそうです。中学生になると、これに制汗剤の匂いが加わってきます。高校生にもなると、特に女子生徒では大人の女性と同じように多くの着香製品を使う子がいます。ある高校生の親御さんの話によると、子どもが学校に持っていった物は、強烈な芳香臭が付いて返ってくるそうです。それだけ教室内が香料で汚染されているのです。

抽出した卵巣から香料の匂いがする

もっとと深刻そうな話があります。それは、ある産婦人科医の次のようなお話です。「卵巣腫瘍などの治療のために卵巣を抽出すると、抽出した卵巣からシャンプーやリンスなどの香料の匂いがするんですよ。これはそんなに珍しいことではありません」と…。

女性の場合、前述した着香製品の多くを日常的に使っている人が

多いはず。一口中、しかも何十年にもわたって香りを鼻から吸引し、皮膚から吸収しているわけです。内臓から香料の匂いがしても何ら不思議ではありません。あるいは、卵巣腫瘍の患者さんに限って、特に香料の匂いが強いのかもしれません。卵巣腫瘍の一因が香料である可能性は大いにあるからです。

卵巣が香料で汚染されると、卵巣も香料で汚染されることに繋がります。女性の誰もが持っている原始卵胞(卵子の元)は、その女性が胎児の頃に出来上がったものであるものです。女性が小学生の頃から吸ってきた香料の悪影響は、お腹の原始卵胞にまで及んでいるという事です。ですから、妊娠してから無香料製品に切り替えたとしても、既に遅いのです。

香料に鈍感そうな大人でも、キツイ香水を振りかけている人が同室に居ると、気分が悪くなります。しかし、香料に過敏な子どもの場合、想像を絶するほどの強い反応

が起るのです。そのような過敏な子どもは年々増加しているのです。過敏症をもたらす原因は、卵の時代から香料を浴び続けてきたからかもしれません。生物の細胞は、ある物質を一度でも異物だと判断すると、その悪影響から逃れるために、強烈に拒否するようになるのです。

日本では香料が野放しである

香料の体への悪影響については、次の機会に少し詳しく触れるつもりですが、ここでは社会的背景について簡単に述べておきます。日本では香料に関する厳密な規制が無いのです。例えば化粧品では、香料にどのような危険な原料を使っても、単に「香料」と表示すれば良く、その詳細を表示する義務はありません。

一般的に香料は、単一の物質で

はなく、多くの原料を混ぜ合わせることで、各メーカーで独特のものになるように作られています。原料の種類は、少なければ数種類かもしれませんが、多ければ数百種類の原料が混ぜ合わされています。仮に表示を義務づけた場合、商品によってはラベルに書き切れないほどの種類になります。そうになると、表示することは物理的にも難しいものとなります。だからといって、メーカーの自主性に任せていただければ香料被害が増えるばかりです。

メーカーは、短期的に毒性が表面化しないのであれば、売れるものはほとんど作ります。ファッション雑誌やテレビCMに誘惑されて、特に若い子たちはほとんど着香商品を消費していきます。この悪循環に歯止めをかけることができるのは、消費者の一人ひとりです。一人でも多くの人が、着香された商品の危険性を知り、人々に伝えていくことです。

子どもの未来を守るワンポイントアドバイス

柔軟剤と香料



赤ちゃんにとって母乳を口にできるかどうかは、生存に関わる大問題。そのため母乳の匂いをかぎ分けられるように、赤ちゃんの嗅覚は大人以上に優れています。

焦げる匂いや腐敗臭など、匂いによって危険予知をするため、嗅覚は非常に大事な感覚なのです。

さて、日常生活の中で一般的な匂いのひとつに、洗剤や柔軟剤由来の香料があります。2000年代初めの洗濯用洗剤や柔軟剤の流行は、匂いを消すことや抗菌が重視されていました。しかし2008年に日用品メーカー大手三社が、香り系柔軟剤を発売したことで人気に火が付き、柔軟剤の香りをファッションとして身に付ける人が増えています。2008年度に比べ2013年度では柔軟剤の市場規模は1.2倍に拡大しました。

一方で全国の消費生活センターに寄せられる「洗濯物の匂いがきつすぎて、頭痛や吐き気がある。」や「柔軟剤の匂いで気分が悪くなる。」などといった匂いに関する健康被害の相談は、2008年度は14件だったのに対し、2012年度では65件で約5倍にもなりました(国民生活センター2013年9月発表)。このデータを見ると、香り系柔軟剤のブームと健康被害について、何か関連がありそうですね。

化学物質過敏症をご存知でしょうか？あまり知られていないため、匂いによる健康被害は「苦手なだけ」、「神経質なだけ」と思われがちです。しかし匂いもれっきとした化学物質の一つであり、少量でも敏感に反応する人がいるのです。嗅覚は他の五感とは異なり、脳の本能や感情・記憶をつかさどる部分に直接伝わる性質があります。脳が心地よく感じない匂いを長時間嗅がされ続けることによるストレスや、それに伴うホルモンバランスの乱れが健康障害につながるという風に考

えられても何らおかしくありません。また匂いの恐ろしい点は、同じ空間にいる以上、その匂いを完全に防ぐ方法が無いということです。これは「香害」とも言われていて、非常に深刻な問題なのです。

そもそも衣類を洗濯する時には、なぜ柔軟剤を使うのでしょうか？柔軟剤の効果を下記に挙げました。

- *生地がふっくら柔らかくなる
- *静電気を起こりにくくする
- *衣類から香りを発するフレグランス効果

このフレグランス効果により、生乾きの匂いを感じさせにくくしたり、タバコなど嫌な匂いを寄せ付けないう効果もあるといわれています。この香料を出来る限り残留させる為に、各メーカーでは柔軟剤に増粘剤を配合しているそうです。

香料以外にも、様々な悪影響を及ぼす可能性のある添加物の入った柔軟剤。ここまで読んであなたははまだ使い続けますか？「でも洋服の生地は柔らかい方がよいし、静電気は困るなあ…」というあなたに、お子さんが誤って口にしても健康を害する危険の無い素材で、香りを付けずに作る柔軟剤をご紹介します。

◆材料◆ ①食酢…100cc* ②グリセリン…大さじ1

*酢の代わりに、水100ccにクエン酸大さじ1を混ぜたものを使うこともできます。

◆作り方&使い方◆ ①と②を混ぜ、すすぎ水30ℓに対し、柔軟剤代わりにこの溶液30ccを入れる。
注意)洗剤の種類によっては柔軟剤の効果が期待できない場合もあります。

匂いは主観的なものであり、同じ匂いを嗅ぎ続けると麻痺してきます。また主観的なものであるがゆえ、匂いについての指摘はしにくいもの。お子さんやご家族の健康を守るためにも、「香害」の加害者にならないように注意しましょう。